

- 1 日時 令和7年12月○日(○) 第○校時
- 2 学年 第5学年○組
- 3 単元名 「海・川とともに生きる○○」【まちづくり】

## 4 単元について

**目標**

○○の川や海の魅力を発見・発信する活動を通して、まちづくりとは、地域の自然や資源に目を向け、その価値を地域の人々と共有し、よりよい地域社会をつくる取組であることを理解し、川や海の魅力を生かした地域との関わり方について考え、地域の一員としてその魅力の発信や保全に主体的に関わろうとしている。

**目指す子供の姿**

- まちづくりとは、地域の自然や資源に目を向け、その価値を地域の人々と共有し、よりよい地域社会をつくる取組であることを理解し、川や海の調査活動を通して、自らの学びや発信が地域の魅力の発見や保全につながることに気付いている。
- ○○の川や海の魅力を地域に伝え、まちのよさを高めていくために、必要な情報を集め、根拠に基づいて整理・分析し、魅力や課題を明らかにしながら、それを目的や相手に応じた方法で効果的に発信している。
- 自分が地域の一員であるという意識をもち、川や海を生かした地域の取組や魅力づくりや保全に向けて、自分にできることを考え、積極的に関わろうとしている。

**現在の子供の姿**

本学級の児童は、これまでの総合的な学習の時間の中で「○○の地域のよさ」や「地域の課題」に目を向けて学習を進めてきた。3年生では交通安全を取り上げて地域の安心・安全について学び、4年生ではゴミ問題を中心とした環境をテーマに探究活動を行う中で、地域への関心や課題意識が着実に育ってきている。

4月の段階でも、アンケートの「○○のまちは好きですか」という問いに対して94.5%が肯定的に答えていたが、11月時点では、その関心がより具体的な行動意欲へと変容してきた。特に、「○○の地域の課題を解決したい」と考える児童は83.6%から92.8%へと増加し、地域の一員としての自覚が一層強まっていることがうかがえる。

また、学習面では、「学習の目標や進め方を自分で決めて取り組むことができる」と答えた児童が92.7%から100%となり、ICT活用や振り返り活動の定着も相まって、全員が自己調整しながら主体的に学習へ向かう姿が見られるようになった。さらに、「学習を振り返り、次の学習に生かすことができる」と回答した児童は96.4%に達し、自分の学習を客観的に見つめ、改善につなげようとする姿も見られるようになってきている。これまで学習に向かうことが難しかった児童も、自分のできる範囲で参加しようとするようになった。

一方で、コミュニケーションの取り方に不安をもつ児童もおり、話し合いでは意見の共有や理由付けに消極的になり、周囲に合わせてしまう様子も見られた。そのため、同じ目的をもつ小集団で学習を進める場を設定してきたところ、自分の役割を意識しながら学習に参加できる児童が増え、学習の基盤が徐々に整ってきている。

**単元の価値**

○○学区には、学校に隣接する元安川や瀬戸内海といった豊かな水環境がありながら、十分に活用されていない現状がある。地域住民からは「護岸も整備されたから川や海をもっと活かしたい」という声もあがっ

ており、地域と協働して活動を行うことも可能である。また、本単元は笹川平和財団・海洋政策研究所の支援を受け、科学的な視点と社会的な視点を融合させた探究的な学びを進める貴重な機会ともなっている。

本単元の価値は、子どもたちが身近な川や海に目を向け、科学的な視点と社会的な視点の両面から地域の価値や可能性を発見していくことにある。まず「科学的な視点」では、太田川上流での自然体験、元安川での水中ドローン調査、水質検査、プランクトンの観察などを行った。五感を使って自然に触れる経験や、データをもとに川の状態を判断する学習を通して、川の「きれいさ」を感覚ではなく根拠をもって捉える力が育ち、地域の自然を科学的に理解することにつながった。一方で「社会的な視点」では、地域の方へのインタビューや地域団体との交流を通して、かつて元安川がアサリ掘りや散歩の名所として親しまれていた歴史など、水辺が暮らしと深く結びついていたことを知ることができた。人々の記憶や語りから学ぶ経験は、川を地域の生活文化の一部として捉える手がかりとなっている。

このように、科学的視点と地域の文化・歴史に学ぶ社会的視点を往還させながら、「地域の未来を自分たちの手でつくる」という意識を醸成することもできる。子どもたちが「〇〇の川や海にはもっと可能性がある」「自分たちの発信でまちを元気にできる」と実感し、持続可能なまちづくりに向けて行動しようとする姿につながっていく。

さらに、〇〇にはエルモ〇〇(LMO)があり、地域ぐるみで子どもを中心としたまちづくりが進められている。地域の方から学習のサポートや発表の場をいただける環境は、学校と地域のつながりを実感しながら学ぶ貴重な機会となっている。このような実社会に開かれた学びは、教科学習の理解を深めるだけでなく、社会の一員として地域に関わろうとする姿勢を育てる重要な要素となっている。

## 働きかけ・環境設定

本単元では、子どもたちが地域の川や海を科学的・社会的な視点から捉え、主体的に探究を進められるよう、学習段階に応じて環境と働きかけを計画的に構成している。

導入では、まず自分たちのまちを歩き、地域の魅力や課題に気付く活動からスタートした。教師は「地域のどんなところに魅力を感じるか」「まちをよくするために地域のどんな活用の可能性があるか」といった視点を意識させつつ、川や海に自然と目が向くようルートを設定した。また、写真を撮影し、気付きを可視化する環境を整えたことで、子どもたちは「水辺のきれいさ」や「水辺の活用」というテーマに自然と関心を寄せるようになった。

まち歩きの後には地域住民への意識調査を行い、「自分たちが見つけた魅力」と「地域の人が感じている現状」とのギャップに気付く活動を行った。ここでは、インタビューの練習やメモの整理など、情報を扱う技能面を支援し、子どもたちが主体的に地域との対話に踏み出せるようにした。続いて実施した太田川上流(廿日市吉和)での自然体験では、川魚の掴み取り、冷たい清流、生き物との触れ合いなど、五感を使った豊かな体験を重視した。この体験は、その後扱う「環境」「歴史」「体験」「防災」「観光」といった抽象的な観点を理解するための基盤となり、川を多面的に捉える力の土台となった。また、子どもたちの「もっと知りたい」「まちの川も調べたい」という思いに応える形で、水中ドローン調査、水質検査、プランクトン採取を計画的に取り入れた。また、地域の方から昔のアサリ掘りや水辺の暮らしの話聞く機会も設け、自然と人の関わりの変遷にも目を向けられるようにした。

小単元2の孫子老まつりでは、ポスター、CM制作、水質体験、微生物観察コーナーなど、STEAM教育の視点を意識した多様な表現活動で地域に発信した。来場者が約100名となり達成感を味わったものの、〇〇には6500人の住民が住むという事実を伝えることで、子どもたちは「発信が十分届いていない」ことに自ら気付き、課題を更新する必要性を感じるようになった。この経験は、小単元3における新たな探究課題「持続可能な発信の仕組みづくり」につながっている。

小単元3からは、探究プロセスをより自力で回すため、小グループによるグループ探究へと学習形態を転換している。また探究の一連の流れを完全に自力で回す力は育ちきっていないが、少人数で明確な目的を共有したグループ活動のほうが、仮説→調査→検証→改善という探究サイクルを体感しやすく、主体的な学びが生まれやすいと考えている。テーマごとに「自分たちが地域の未来のためにできること」を話し合いながら、課題設定・情報収集・整理分析・表現のサイクルを自力で試行錯誤できるような環境をつくっている。また、情報の収集の段階では、他地域の成功事例に出会い比較できるよう、旅行ガイドブックや観光資料、地域のまちづくりの事例を教室に掲示し、日常的に手に取れる環境を用意した。加えて、メール・電話・デジタルアンケートなどを活用して情報を集められるようにし、「思いついたときにすぐに調査に動ける」学習環境を整えている。また、検索時にはAIの要約が表示されることもあるため、情報源を確認しながら信頼性を確かめる姿勢を育てている。

地域住民、商店、専門家、海洋政策研究所、広島県観光連盟（HIT）などの外部の方々が伴走者として関わることで、子どもたちはよりリアルで専門的なフィードバックを得ながら探究を進めている。特に観光大使に任命された経験は、子どもたちに「広島県観光大使として発信する」という自覚をもたらし、学びの質をさらに高めている。

このように、五感で味わう体験、科学的調査、他地域との比較、デジタルを活用した情報収集、小グループによる探究、外部との協働を組み合わせた環境を整えることで、子どもたちは自分の仮説を検証しながら課題を更新し、地域の未来を自らつくる意識につながっている。

## つながる学び

校内研究「STEAM 教育（Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics）」との関連

### ○ Science（科学）

川や海の活用の可能性を探るため、水質調査やプランクトンの観察、水中ドローンによる水中境の記録などを行い、科学的なデータをもとに地域資源の価値や課題を考察する。

### ○ Technology（技術）

地域の魅力を発信するために、動画編集アプリ、デジタルマップ、スライド、Web 作成ツール、プログラミング（embot）などを活用し、音声・写真・映像などを組み合わせながら効果的に情報発信できるようにする。

### ○ Engineering（工学的思考）

どのように情報を組み合わせれば伝わりやすいか、どの場面でのどの演出が適切かを考え、構成を試行錯誤しながら「発信の仕組み」を改善していく。また、イベント全体の流れや展示のレイアウトなども、目的に合わせて設計・改善する。

### ○ Arts（芸術）

川や海の魅力や活用のアイデアを地域に発信する際、写真・イラスト・文章・デザインの工夫を取入れ、視覚的にわかりやすく魅力が伝わる表現を行う。

### ○ Mathematics（数学）

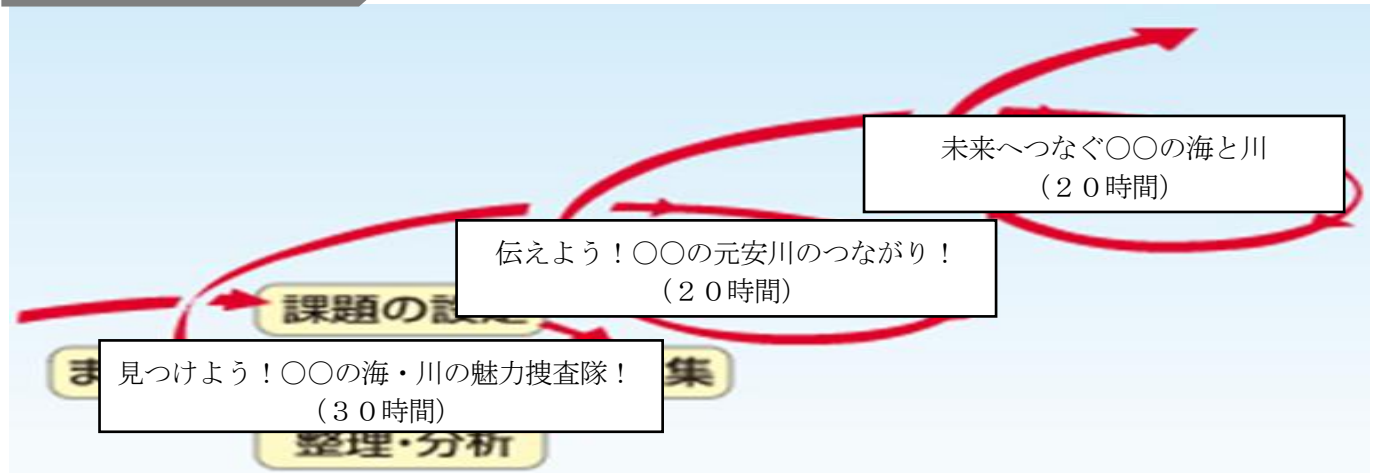
地域住民への意識調査や学習成果の整理にあたり、アンケート結果や調査データをグラフや表で可視化し、データに基づいた発信内容の根拠を明確にする

5 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>○ まちづくりとは、地域の自然や資源に目を向け、その価値を地域の人々と共有し、よりよい地域社会をつくる取組であることを理解し、川や海の調査活動を通して、自らの学びや発信が地域の魅力の発見や保全につながることに気付いている。</p>	<p>○ ○○の川や海の魅力を地域に伝え、まちのよさを高めていくために、必要な情報を集め、根拠に基づいて整理・分析し、魅力や課題を明らかにしながら、それを目的や相手に応じた方法で効果的に発信している。</p>	<p>○ 自分が地域の一員であるという意識をもち、川や海を生かした地域の取組や魅力づくりや保全に向けて、自分にできることを考え、積極的に関わろうとしている。</p>
<p>① まちづくりとは地域の自然や資源に目を向け、その価値を地域の人々と共有し、よりよい地域社会をつくる取組であることを理解している。</p> <p>② 目的や相手に応じた適切な方法を選択し、調査活動を実施している。</p> <p>③ 自らの活動がまちづくりの一端を担っていることへの理解は、地域の課題を自ら発見し、改善策を考えるということを探究的に学習してきた成果であることに気付いている。</p>	<p>① 地域の川や海が十分に活用されていない現状や住民の思いに目を向け、自分たちにできることは何かを考え、課題を設定している。</p> <p>② 課題解決に向けた現状把握のため、目的に応じて水質調査や地域住民へのインタビュー、歴史や文化の学習など、必要な情報を意図的に集めている。</p> <p>③ 課題の解決に必要な情報を取捨選択し、比較・関連づけながら、解決に向けて考えている。</p> <p>④ 地域の魅力や課題解決策を、相手の立場や関心を考えた内容やデザインに工夫を凝らしながら、効果的に伝えている。</p>	<p>① 課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。</p> <p>② 魅力あるまちづくりに向けた探究的な活動体験を通して、自他のよさを活かしながら協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③ 地域の未来を見据え、理想のまちづくりに向けて自分にできることを考え、社会の一員として地域の取組や課題解決に積極的に関わろうとしている。</p>
<p>出会う学びの財・環境（ひと・もの・こと）</p>		
<p>・KAZU 齋藤玲子様 ・いしちゃん 石間勝隆様 ・もみじ 田中恵子様 ・ひなた ・玉井釣漁具店          ・つたや呉服店 ・○○学区孫子老のまちづくり協議会（エルモ○○）          ・○○学区の住民 ・保護者          （・中区役所地域おこし推進課） ・広島県観光連盟（HIT） ・広島市環境局 ・もみの木森林公園          ・公益財団法人笹川平和財団 海洋政策研究所 ・国土交通省 広島港湾・空港事務局          ・東亜建設工業株式会社 中国支社 土木部 ・丸栄株式会社 ・千田水資源再生センター          ・広島大学 名誉教授 林 武広様 ・ウインドサーフィン&amp;SUP 広島 TEAM NARU          ・株式会社 REKIDS なるほどエージェント 行正り香様</p>		

6 指導と評価の計画 (全70時間)

探究の過程の構想






	小単元1 見つけよう!〇〇の海・川の魅力捜査隊! 〈本当に〇〇の海・川に魅力はあるのか?〉	小単元2 伝えよう!〇〇と元安川のつながり! 〈〇〇を魅力あるまちにするには?〉	小単元3 未来へつなぐ〇〇の海と川 〈〇〇の魅力を守っていくためには?〉
課題の設定	まちを歩き、川や海の周辺を観察した際に感じた活用されていない印象と、自分たちが理想とする魅力的な川や海のあるまちのイメージとのギャップをもとに、〇〇の川や海の魅力をどうすれば活用できるかという課題を設定する。(6時間)	「川や海の魅力が十分に地域の人に伝わっていない」という課題を見直し、「どうすれば川や海の魅力や新しい活用の可能性を地域の人に伝えられるか」という課題を設定する。(2時間) (思①)	〇〇の海・川を守るには、地域の人だけではなく、上流から関わる多くの人の協力が必要であることに気付き、「海・川をこれからもずっと地域の魅力として守り続けていくためにはどうすればよいか」という課題を設定する。(2時間) (知①)
情報の収集	川や海の魅力を発見するために、自然体験学習(太田川上流の廿日市吉和)、地域住民への意識調査やインタビュー、水質調査や水中ドローンによる観察など、多面的な情報を収集する。(10時間)	祭りでの発信に向けて、地域住民への再アンケートやインタビューを行い、川や海に関する科学、歴史や文化的なエピソードなどの情報を集める。(6時間) (思考②)	他地域の海・川を守る取組や自然保護の発信活動の成功事例の情報を集め、地域内外に発信するために必要な情報を集める。(8時間) (知②・主②)
整理・分析	収集した情報や体験をもとに、〇〇の川や海の魅力と課題を整理し、「〇〇の川や海がもつ価値とは何か」について考えを深める。(6時間) (思③)	収集した情報や学習してきた内容をもとに、目的や相手意識をもって、祭りでの発信内容を精査する。(4時間)	集めた情報をもとに、地域内外の人に海・川の魅力が届くための条件を分析する。(4時間) (思③・主③)
まとめ・表現	見つけた川や海の魅力や可能性を、地域住民に向けて効果的に伝える動画を制作する。(8時間)	孫子老祭りにて、ポスター展示、動画上映などを行い、地域の人々に川や海の魅力と活用の可能性を効果的に発信する。(8時間)	「〇〇の海・川の魅力をこれからも守るための取組」についての提案をまとめ発信する。(6時間) (知③・思④)

※黒枠：本時 黄色：単元の山場

7 本時の目標

収集した情報や体験をもとに、グループごとに立てた課題の原因を分析し、これからの提案する企画に必要な条件を考える。【思考・判断・表現 ③】

8 本時の学習展開

学習活動	働きかけ（目指す子供の姿のために）
<p>1 今日の計画を立てる（5分）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分たちの課題の原因と、提案する企画に必要なポイントを見つけよう。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>今日から整理・分析をしていきます。それぞれ課題がどうして解決しないかの原因を分析して、これから考える企画に必要な条件を考えましょう。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>このグループは人が川に来ない理由を分析して、企画をするときに来てもらえる条件を考えよう。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>僕たちは、なぜ平和のイベントが今まで開かれてなかったのかをまず考えよう。</p> </div>	<p>○本時のめあてをグループごとに決めて活動にはいるように促す。本時は整理分析のため、何を深掘りするかを明確にして活動に入るように促す。</p> <p>○明確でないグループには声をかけ、軸がぶれないよう助言を行う。</p>
<p>2 グループごとに課題の原因と、提案する企画に必要な条件を考える。（これより①～⑥のグループ別の活動を示す。）</p> <p>2-① 川と人をつなげるグループ</p> <p>調べた情報をもとに、なぜ近くに川があるにも関わらず川に人が来ないのかという原因を考え、川にどんな価値があれば川に来てもらえるかについて考えを出し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>川と人がつながっていなかった原因は、やはり川に行っても楽しいと思えることがないことではないかな。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>私たちが調べた中でも、きれいだと思われない人が多かった。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>危ないって思っている人もいるよね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>（元安川を渡る）船から〇〇見る企画では、もっと川を間近で見れて、川のきれいさや生き物に触れ合えるかもしれないよ。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>実際に乗ったことがないからわからないけど、1月に船に乗れるからその時に気持ちわかるかもしれない。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>ロコミの中に「川から海につながる場所の風景がいい」と書いてあった。それはまさに〇〇のことだね。景色が素敵だと感じるポイントなのでは。それを発信して乗ってもらおう。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ひろしまリバークルーズに乗った人のロコミはいいことが書いてあるけど、乗ったことがない人には伝わらないね。</p> </div>	<p>2-①</p> <p>●このグループは川にもっと関心をもってもらうため、川と人をつなげるためのきっかけをつくらうとしている。ヴェネツィアで水辺を楽しむレジヤや、市内での川を活用したイベント、ひろしまリバークルーズなどのロコミを調べている。企画は〇〇クルーズ（〇〇の川を船で走る）を考えている。</p> <p>○思考ツール（Tチャート）を使って課題の原因から必要な条件を考えられるようにする。</p> <p>○話し合いが進めまないとときは、ひろしまリバークルーズのロコミを見て再度情報を集めるように促す。</p> <p>2-②</p>

川に人が集まる理由をもとに、さらに人のつながりを広げるために、どんな条件が必要かについて考えを出し合う。



川や海の近くでバーベキューをする人は多い。春や秋の涼しい時期が多いね。

川沿いでバーベキューをした人たちから話を聞いたけど、川を見ることはあまりなかった。でも「気持ちよかった。」と言っていた。

川の水質がきれいとかではなくて、**雰囲気や気持ちよさを求めてくる**のかもしれないね。

ということは、川の気持ちよさを感じてもらえるイベントにすれば、来てもらえる可能性が上がるかもしれない。魚釣りもバーベキューもどちらもいいけど、川を楽しんでももらいたいな。

護岸があると川を見れないけど、中工場の釣り公園なら海の**景色を見ながら**楽しめるかもしれない。



でも、やっぱり何をするかよりも**人のつながりをつくる**ことが大切だから、**知らない人も関わられる**ということが重要だよな。

となると、「みんな」で「海の気持ちよさを味わう」というコンセプトやテーマを伝えることが重要な。

2-③ 平和のイベントをつくるグループ  
なぜ〇〇に平和を祈る文化が根付いていないのかを分析し、地域に根付くために必要な条件を考える



平和灯籠を護岸に展示して平和を祈ることは、(物理的には)できそうだな。

これをしようと思った理由は、平和の行事がないからだけでは説得力がないよね。

ルミナリエや、灯籠流しには、**きっかけになる出来事**があった。

悲しい出来事だったけど、**その思いを受け継ぐ人がいた**から始まったんだと思う。

子どもたちが毎年作れば、もしかしたらずっとできるんじゃないかな。**僕たちがきっかけをつくって、みんなに思いを伝えてほしい**



● このグループは、水辺の場を通して人と人との交流を生み出し、地域の海・川を中心としたコミュニティをつくろうとしている。そのために水辺で集って団欒をした経験のある人から情報を集めている。仮の企画として、川沿いのスタンプラリーや、バーベキューイベントを考えている。

○思考ツール (Tチャート) を使ってなぜ人は水辺に集まるのかという価値を焦点化し、その上で、グループのコンセプトを考える

○話が行き詰まったときには、バーベキューをしている人たちが「気持ちよかった」といった理由を引き出すことで、〇〇の海・川沿いに人が集まる価値を言語化できるようにする。

2-③

●このグループは、元安川が原爆の悲劇と平和の象徴としての歴史的意味をもつ価値ある川であるにも関わらず、その下流である〇〇には平和に関するイベントが存在しないという課題に気づき、自分たちの手で新たな平和イベントをつくり、文化として根付かせようとしている。平和灯籠を護岸に展示してライトアップするための牛乳パックによる試作品づくりに取り組んでいるほか、県内外の平和行事や復興イベントなど、人が多く集まり継続して実施されている行事について情報を集めている。

○思考ツール (Yチャートとクラゲチャート) を用いて、他地域で平和イベントが根付いた理由を整理し、その中から〇〇でも生かせる中心となる価値と、それを支える要素をクラゲチャートでまとめられるようにする。

フラワーフェスティバルも神戸のルミナリエも小学生が歌を歌ったりしている。

毎年するには毎年できる立場の人がやっ  
ていくことが大切になるかもしれない。

#### 2-④ 海・川の美化グループ

なぜ人々が海洋ごみに無関心であるかの理由を考え、行動してもらうためにはどんな条件が必要かを考える。



まちに落ちているゴミは目の前に見えるけど、海洋ゴミは見えにくいから、知られていないのかもしれないね。

きれいにしたい！とは思っていても行動している人が少ないし、自分の問題になっていないのかもしれない。

NARUさんみたいにビーチで海洋プラスチックを拾っている活動があまり知られていないことも、残念だね。

自分の問題になっていないというのは、自分の出したゴミが海に行っていることの、**つながりがわからないから**じゃない？



アクセサリーにするのも、身につけることで、この問題に関心をもってもらえるかもしれない。

ということは、**問題** **に見えるようにしたり、自分ごとになるようにしたり、身近にすることが大切**なんじゃないかな。

#### 2-⑤ 海・川の生命を守るグループ

○話が行き詰まったときには、「灯籠を並べるだけで人は来るのか」「続けていくには誰が担い手になるのか」「〇〇ならではの平和の意味は何か」といった問いを投げ返し、集めた情報に立ち返って根拠を見いだせるように促す。必要に応じて、追加の情報収集につなげる。

#### 2-④

○このグループは、川のゴミ問題が減らない大きな原因として、人々が無関心であることに着目している。これまでの美化活動では「知っていても行動しない」人が多いことを踏まえ、まずは海洋プラスチックが生き物や環境に与える深刻な影響を知ってもらうことが意識を変える第一歩であると考えている。そのため、海岸に流れ着いたゴミや海洋プラスチックの実態、廿日市での美化活動などの情報を収集し、「どのような発信であれば人々が自分ごととして関心をもつのか」を検討している段階である。仮の企画として、海洋プラスチックを使ったガラス細工を作って、発信しようとしている。

○思考ツール（フィッシュボーン）を用いて、「なぜゴミが減らないのか（原因）」と「関心が生まれるために必要な要素（解決につながる視点）」を整理し、アクセサリーづくりの企画が意識変容に有効であるかを分析できるようにする。

○話が行き詰まったときには、「知ってもらうだけで人は行動を変えるのか」「どうすれば自分ごととして考えてもらえるか」といった問いを投げ返し、収集した情報に立ち返りながら根拠を見いだせるようにする。

#### 2-⑤

元安川の生き物が身近にいるにもかかわらず人々が関心をもていない理由を分析し、生き物を守るため何が必要かを考える。



地域の人が生き物に関心がないのは、やっぱり触れ合う機会が少なくて、知らないからではないかな。祭りのときも、教科書で習ったくらいしか知らないと言っていたから。

私たちが知れば知るほど楽しくなってきたから、まずは知ってもらうことが必要なのではないかな。

でも知ってもらうだけでは、**行動は変わらない**から、実際に行動してもらえるようなことをしていかないといけない。

発信するときは、これが微生物です！って紹介しても興味は湧かないと思う。**実際に見て、おお！って驚くような体験**が必要だと思う。



〇〇の川や海にどんな生き物がいて、**どのくらい珍しいか**知ってもらうことで釣りをするときにも興味が湧くと思う。

生き物がゴミを食べて死んでしまうことを聞いたから、**心配**になった。これも守るきっかけになるのではないかな。

## 2-⑥ にぎわいのある未来の川とまちグループ

元安川ににぎわいがない理由を分析し、未来の川やまちがどのような姿であれば人が集まり続けるのか、その条件を考える。



未来の〇〇の川沿いは賑わって欲しいけど、平和公園の近くに来ている観光客みたいなにぎわいにはならないよね。

観光地には川だけでなく観光スポットがあるよね。

写真をとったり、ゆっくり川を見たりするベンチがあるよね。

〇〇の護岸にも、**立ち止まって景色を楽しむ場所**があるのかもしれない。



● このグループは、元安川や瀬戸内海に生息する生き物を守ることを目的に、プランクトンの観察や元安川・海で釣れる魚の種類について調査している。また、地域の釣具店で情報収集を行うなど、実際に地域で生き物と関わっている人からの聞き取りも行っている。さらに、海洋プラスチックによる生態系への影響や、生き物が誤ってゴミを食べてしまうことで命が失われている現状にも関心をもち、「命のつながりを知ってもらうことが、生き物を守る意識につながる」と考えている段階である。

○思考ツール（クラゲチャート）を用いて、「生き物が守られるために必要な条件」を構造化し、自分たちの企画がどの部分に働きかけられるのかを整理できるようにする。

○話が行き詰まったときには、「生き物について知ってもらうだけで人は行動を変えられるのか」「何を知ると面白いと思ってもらえるか」といった問いを投げ返し、収集した情報に立ち返りながら根拠を見いだせるようにする。

## 2-⑥

● このグループは、元安川ににぎわいがない現状に着目し、未来の川やまちをにぎわいのある場所にしたいと考えている。そのために、海外や国内の観光地など、水辺を活用してにぎわいを生み出している地域と比較し、「なぜそこには人が集まるのか」「どんな仕組みがあるのか」について情報を収集してきた段階である。

○思考ツール（Yチャート）を用いて、にぎわいが生まれる条件を「人が来る理由」と「続く仕組み」の2つの視点から整理し、未来の川の姿を構想できるようにする。

人が集うきっかけがあるかもしれないね。他のグループがイベントを考えているから、私たちは、ベンチとか、写真スポットが必要だということを伝えよう。

一回きりにならないようにすることも必要で、BE KOBEのようなインスタ映えするスポットもあるといいかもしれないね。〇〇に行く理由が必要だ！

〇話が行き詰まったときには、「ヴェネツィアに人が集まる理由は何か」「その理由は〇〇でも実現できるのか」と問い返し、比較した情報に立ち返って根拠を見いだせるようにする。また、「観光地としてのにぎわい」と「地域としてのにぎわい」を比較することで、地域の人に関わり続けることや、一時的なイベントでは持続しないことに気付けるようにする。

#### 4 振り返りを書く。(5分)

(川と人をつなげよるグループを例に)  
 今日はTチャートを使って、「なぜ川に人が来ないのか」という原因と、これからの企画に必要な条件を分析しました。原因は「川で何ができるか分からないこと」と「魅力が伝わっていないこと」だと考えました。インタビューでも「行く理由がない」と言われていたし、私たちも歩くまで景色のよさに気付いていませんでした。また、ロコミから川と海がつながる景色が魅力だと分かり、景色をアピールして、行くきっかけをつくる必要だと気付きました。

### 8-1 板書計画

自分たちの課題の原因と、提案する企画に必要なポイントを見つけよう。

	①人と川	②人と人	③平和	④美化	⑤生命	⑥未来
目的	○	○	○	○	○	○
情報						
仮企画						

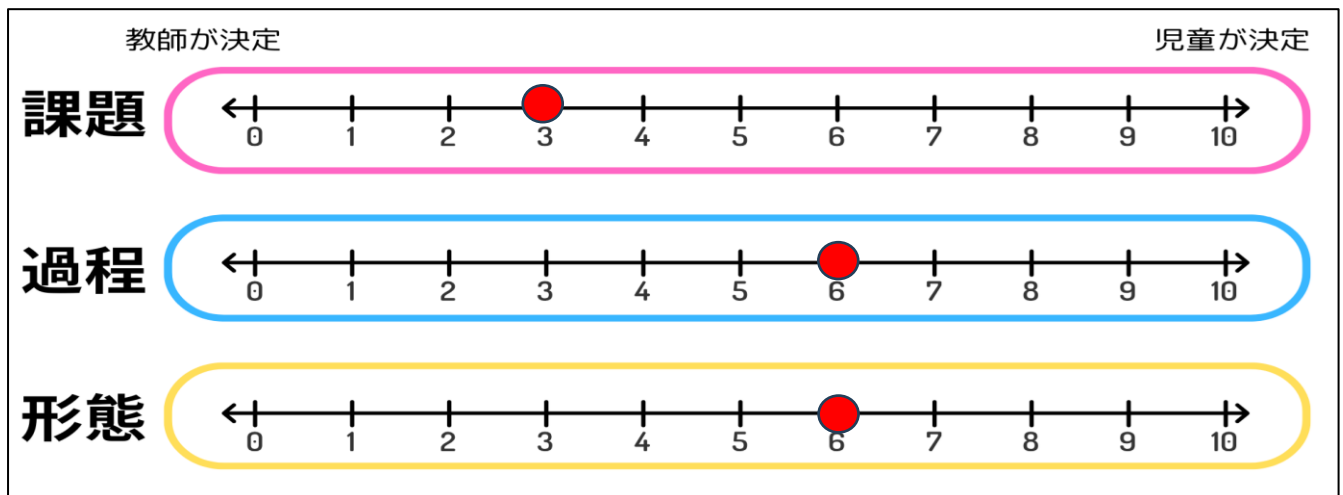
#### 整理・分析

- ① 可能性の高い原因は何か。  
 ↓ (～が・・・していない。)  
 (他の地域にはある・・・がない。)
- ② 企画を考えると、必要なポイント(条件)は何か。
- ③ 仮企画でポイントを満たすことはできるか?

### 9 本時の評価規準と目指す子供の姿

本時の評価規準	目指す子供の姿
<p>【思考・判断・表現③】 収集した情報や体験をもとに、グループごとに立てた課題の原因を分析し、これからの提案する企画に必要な条件を考えている。</p>	<p>○自分の体験や調査活動の結果をもとに、グループごとに立てた課題の原因や条件について言葉で表している。（ふりかえり）</p> <p>&lt;2-① 川と人をつなげるグループを例に&gt;</p> <p>A評価：B評価に加えて、他地域の成功例（ロコミなど）や地域の人声など踏まえ、複数の情報から原因と条件を因果関係を含めて説明できている。</p> <p>→人が来ないのは「川で何ができるか分からないこと」と「魅力が伝わっていないこと」が原因だと思う。インタビューでも「行く理由がない」と言われていた。ロコミからは、川と海がつながる景色が人をひきつけることが分かった。だから、景色のよさを伝える工夫と、川に行く理由がわかるようにすることの2つが必要だと考えた。</p> <p>B評価：自分の体験や調査活動をもとに、原因と条件について言葉で表している。</p> <p>→〇〇の川に人が来ないのは、川のきれいさや景色のよさがあまり知られていないからだと考える。実際、私たちも川を見に行くまで、川と海がつながって見える景色の良さに気付かなかった。だから、川のきれいさや景色のよさを発信して、「見てみたい」「行ってみたい」と思ってもらわなければならないと思う。</p> <p>C評価：原因や条件についての言葉が少なく、主観的な感想にとどまっている。</p> <p>→川に人が来ないのは、あまり行かない場所だからだと思った。もう少し川のことを知ってもらえたら来ると思う。</p>

## 10 教師の介入レベル



※学習課題、学習過程、学習形態について教師が子どもにどのくらい委ねるかを数値化しています。

計画と実際を比べてどうだったか。また、どのくらい介入するべきか。など、参観する際の指標にするために記載しています。

## 11 本時の見どころ

○単なる思いつきではなく、「原因 → 条件 → 企画の方向性」と筋道立てて考える姿

○目的に合わせた思考ツールの使い分け

- ・Tチャート（現実（原因）・理想の比較）
- ・フィッシュボーン（原因分析）
- ・クラゲチャート（必要な条件の構造化）
- ・Yチャート（価値の焦点化）